

週刊 **タバコの正体**

タバコには200種類以上の有害物質と60種類以上の発ガン物質が含まれています。その証拠にタバコのパッケージには次のような警告文が印刷されています。

『喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなります。』

『喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。』

『喫煙は、あなたにとって脳卒中の危険性を高めます。』

にもかかわらず、喫煙者はタバコを買い求め、来る日も来る日も有毒な煙を吸い続けているのは不思議ですよ。

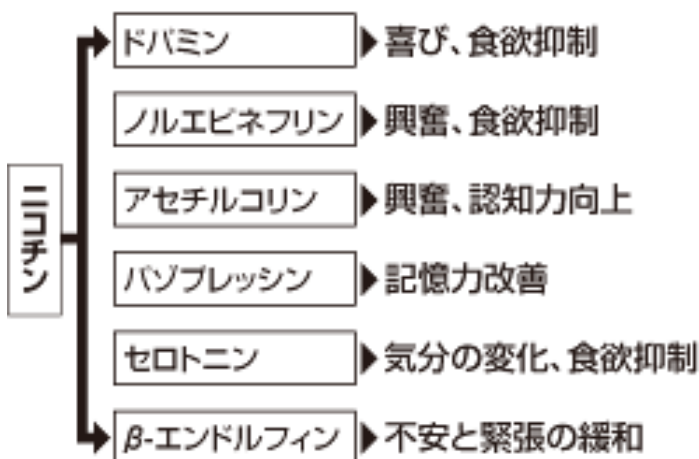
例えば、『これを飲めば、ガンになる可能性があります』と書いているジュースを買う人はいないでしょう。でもタバコなら買う人は大勢いるのです。そう考えると、そんな危険なモノがコンビニや自動販売機で販売されていること自体が、さらに不思議ですよ。

では、どうしてタバコを吸い続ける大人が多いのでしょうか。

それは、一旦タバコを吸い始めると「やめられなくなる」からなのです。

では、どうしてタバコは「やめられなくなる」のでしょうか。それは、タバコに含まれる有害物質の一つ“ニコチン”の仕業です。ニコチンは毒劇物取締法で毒物に指定されるほどの物質で、体内に入ると脳

ニコチンによって分泌される神経伝達物質



ノバルティス ファーマ 「禁煙サポートサイト いい禁煙」から

けなければならなくなるわけです。

の神経に作用して、左図にあるようにドーパミンやセロトニンなどの神経伝達物質を分泌させます。するとそのせいで人は“快感”を感じてしまいます。これは「コカイン」「モルヒネ」などの覚醒剤や麻薬が人体に与える感覚と同じで、この“快感”を覚えてしまうと、自分の意思が及ばない脳の生理的な反応がニコチンを要求し続けるわけです。

これが「ニコチン依存症」と呼ばれる症状で、『喫煙は肺がんの原因となる』とわかっているにもかかわらず、「やめたい」と思っているにもかかわらずニコチンを補給するために、来る日も来る日もタバコを吸い続

いかがでしょうか。こんなことになるのがわかっただけで、わざわざタバコに手を出すのは馬鹿げていると思いますよね。

産業デザイン科 奥田 恭久